

平成27年度 既存健診対象外の県民に対する健康診査の実施状況について

【目 的】

県民健康調査（長期にわたる県民の健康の見守り）の一環として、これまで既存制度による健康診断、健康診査を受診する機会がなかった県民に対して健康診査の機会を設けることにより、生涯にわたり生活習慣病の予防や疾病の早期発見、早期治療に資することで、健康長寿県を目指す。

【対 象】

健診実施年度に概ね19歳から39歳の年齢に達する者であって、実施年度の4月1日時点で福島県内に住民登録をしていた者。

ただし下表に掲げる既存制度の健診を受診する機会がある者を除く。

- ・労働安全衛生法に基づく健康診断（定期健康診断等）
 - ・学校保健安全法第13条に基づく児童生徒等の健康診査
 - ・県民健康調査として避難区域等^{*}の県民を対象として県が行う健康診査（項目を上乗せして行う健康診査）等
- ※避難区域等とは
田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村の全域、及び伊達市の一部（特定避難勧奨地点が属する区域）

【健診項目】

身長、体重、BMI、血圧、血液生化学（AST、ALT、 γ -GT、中性脂肪（TG）、HDL コレステロール、LDL コレステロール、HbA1c、空腹時血糖（又は随時血糖）、尿検査（尿糖、尿蛋白）

【方 法】

市町村が実施する集団健診、県内の医療・健診機関での個別健診、または別途設定する集団健診により実施した。

また、県外に自主避難している対象者については、県外医療機関の協力により健康診査を実施した。

【受診者数】

13,108人（データベース登録承諾者数12,060人（男性3,066人、女性8,994人）。）

【結 果】

各健診項目の平均値について、全国平均値（国民健康・栄養調査）と比較すると、全国平均値より高い傾向がみられたのは、ALT（20歳以上男性）、 γ -GT（20歳以上男性）の2項目、全国平均値より低い傾向がみられたのは、中性脂肪（20歳以上男女）であった。

健診項目ごとの結果を次ページ以降に記載した。

なお、各項目の割合は端数処理をしており、合計が100%にならない場合がある。

BMI

□ BMIとは

身長と体重から計算されるBody Mass Index（肥満指数）の略。

$$\text{BMI} = \text{体重 (kg)} / (\text{身長 (m)})^2$$

□ 検査の意味

肥満度の判定方法の1つ。

【肥満度の判定基準（日本肥満学会 2000）】

日本肥満学会が決めた判定基準では、統計的にもっとも病気にかかりにくいBMI 22を標準とし、25以上を肥満として、肥満度を4つの段階に分けている。

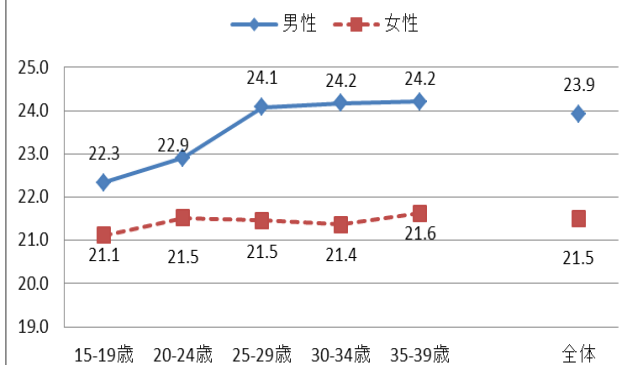
BMI	
低体重(やせ)	18.5未満
普通体重	18.5以上25未満
肥満(1度)	25以上30未満
肥満(2度)	30以上35未満
肥満(3度)	35以上40未満
肥満(4度)	40以上

□ 結果

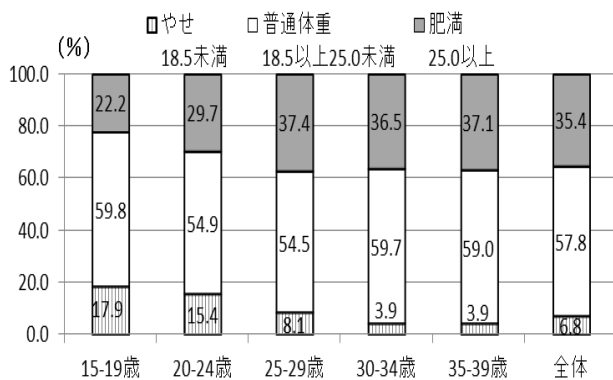
BMI 受診者数

	男性	女性	合計
15-19歳	117	96	213
20-24歳	408	558	966
25-29歳	580	1,419	1,999
30-34歳	935	3,144	4,079
35-39歳	1,026	3,772	4,798
合計	3,066	8,989	12,055

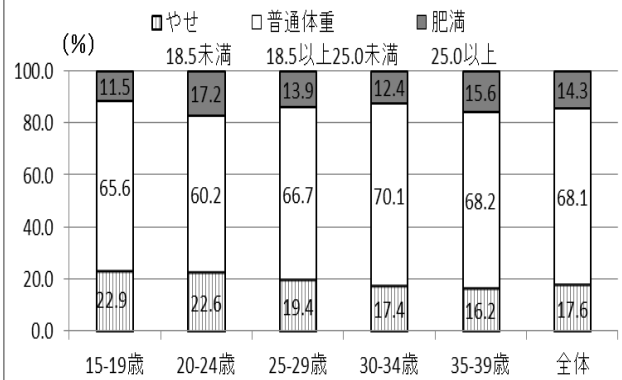
BMI 平均値



BMI 区分別割合(男性)



BMI 区分別割合(女性)



(参考)

☞ 平成 26 年国民健康・栄養調査による BMI 平均値

	男性	女性(妊婦除外)
15-19 歳	20.91	20.42
20-29 歳	22.36	21.09
30-39 歳	23.48	21.80

☞ 健康日本 21 目標値

【目標項目】適正体重を維持している者の増加（肥満（BMI25 以上）、やせ（BMI18.5 未満）の減少）

【目標】（平成 34 年） 20 歳～60 歳代男性の肥満者割合 28.0%
20 歳代女性のやせの者の割合 20.0%

収縮期血圧

□ 収縮期血圧とは

心臓が収縮して血液を押し出した瞬間は、血管に一番強く圧力がかかる。これを収縮期血圧（最高血圧）という。

【高血圧治療ガイドライン 2014】（日本高血圧学会）
血圧の分類 成人における血圧値の分類

□ 検査の意味

主に脳卒中や心臓病など、動脈と心臓に関する疾患が発症する危険度を評価するために行う。

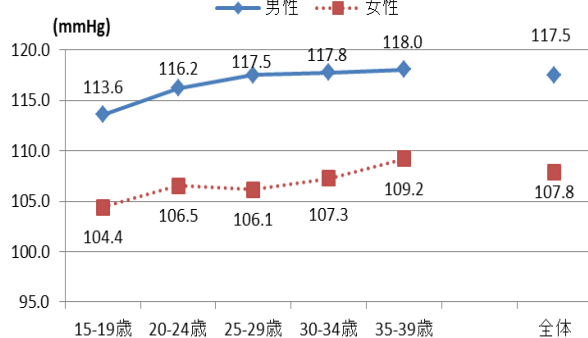
分類	収縮期血圧		拡張期血圧
至適血圧	< 120	かつ	< 80
正常血圧	120~129	かつ/または	80~84
正常高値血圧	130~139	かつ/または	85~89
I 度高血圧	140~159	かつ/または	90~99
II 度高血圧	160~179	かつ/または	100~109
III 度高血圧	≥ 180	かつ/または	≥ 110
(孤立性)収縮期高血圧	≥ 140	かつ	< 90

□ 結果

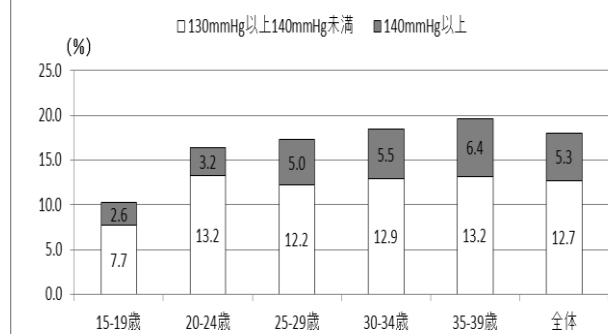
収縮期血圧 受診者数

	男性	女性	合計
15-19歳	117	96	213
20-24歳	408	558	966
25-29歳	580	1,419	1,999
30-34歳	935	3,144	4,079
35-39歳	1,026	3,777	4,803
合計	3,066	8,994	12,060

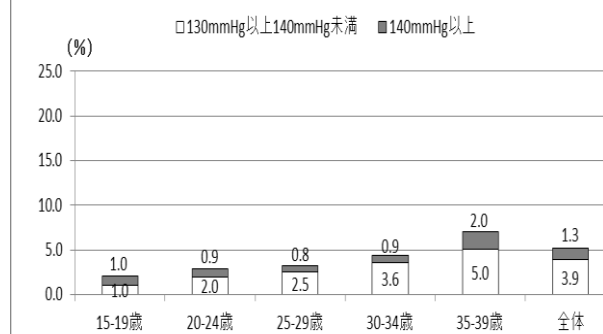
収縮期血圧 平均値



収縮期血圧130mmHg以上の割合(男性)※



収縮期血圧130mmHg以上の割合(女性)※



※ 特定健診・特定保健指導における保健指導判定値（130mmHg 以上 140mmHg 未満）及び受診勧奨判定値（140mmHg 以上）を用い、130mmHg 以上の者の割合を求めた。

(参考)

☞ 平成 26 年国民健康・栄養調査による収縮期血圧平均値 [血圧を下げる薬の使用者含む]

(単位： mmHg)	男性	女性
20-29 歳	120.6	108.4
30-39 歳	123.1	110.2

☞ 健康日本 21 目標値

【目標項目】高血圧の改善（収縮期血圧の平均値の低下）

【目 標】(平成 34 年) 男性 134 mmHg、女性 129 mmHg

拡張期血圧

□ 拡張期血圧とは

収縮した後に心臓が広がる（拡張する）時には、圧力が一番低くなる。これを拡張期血圧（最低血圧）という。

□ 検査の意味

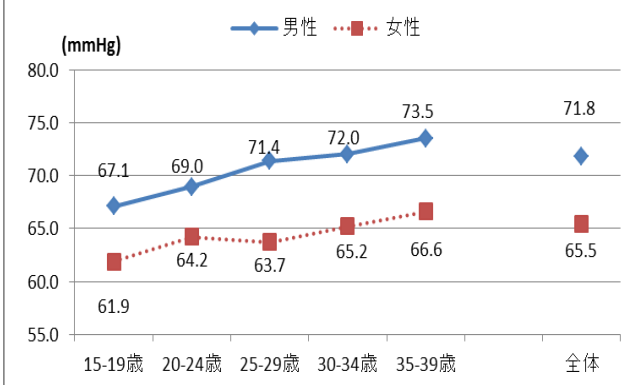
主に脳卒中や心臓病など、動脈と心臓に関する疾患が発症する危険度を評価するために行う。

□ 結果

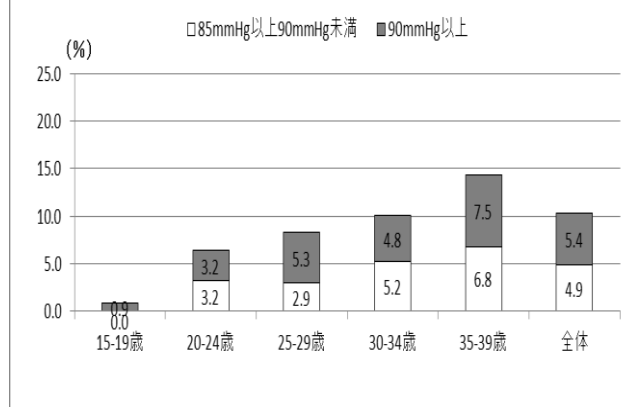
拡張期血圧 受診者数

	男性	女性	合計
15-19歳	117	96	213
20-24歳	408	558	966
25-29歳	580	1,419	1,999
30-34歳	935	3,144	4,079
35-39歳	1,026	3,777	4,803
合計	3,066	8,994	12,060

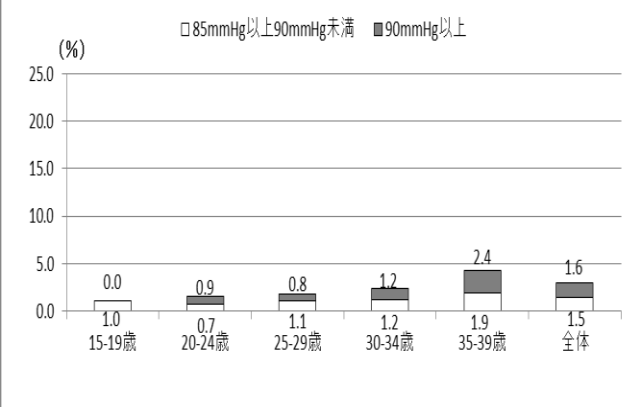
拡張期血圧 平均値



拡張期血圧85mmHg以上の割合(男性)※



拡張期血圧85mmHg以上の割合(女性)※



※ 特定健診・特定保健指導における保健指導判定値（85mmHg 以上 90mmHg 未満）及び受診勧奨判定値（90mmHg 以上）を用い、85mmHg 以上の者の割合を求めた。

（参考）

☞ 平成 26 年国民健康・栄養調査による拡張期血圧平均値〔血圧を下げる薬の使用者含む〕

（単位： mmHg）	男性	女性
20-29 歳	73.0	68.9
30-39 歳	78.8	69.3

□ AST とは

AST（アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ）は酵素の一種で、心臓の筋肉や骨格筋、肝臓に多く含まれている。

□ 検査の意味

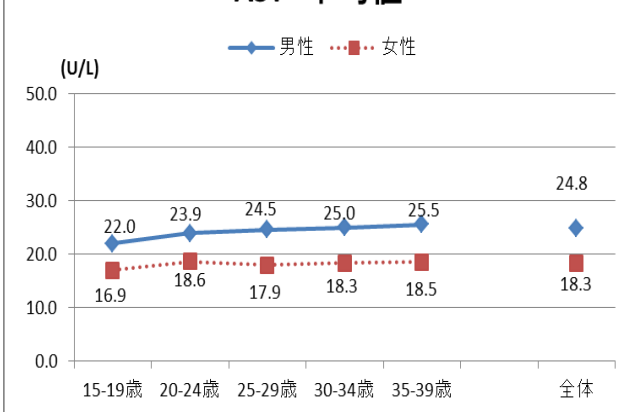
血液中のASTの量により、主に肝臓や心臓にどの程度の障害が起きているかを知ることができる。

□ 結果

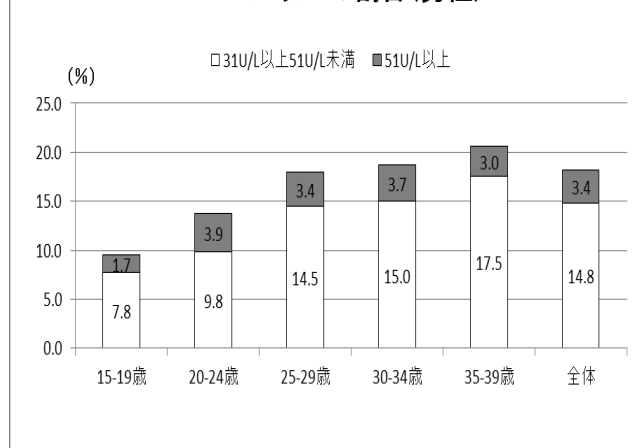
AST 受診者数

	男性	女性	合計
15-19歳	116	96	212
20-24歳	408	558	966
25-29歳	580	1,418	1,998
30-34歳	935	3,144	4,079
35-39歳	1,026	3,777	4,803
合計	3,065	8,993	12,058

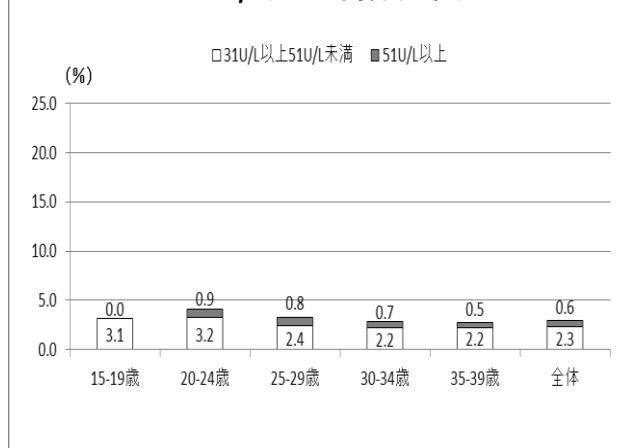
AST 平均値



AST31U/L以上の割合(男性)※



AST31U/L以上の割合(女性)※



※ 特定健診・特定保健指導における保健指導判定値（31U/L 以上 51U/L 未満）及び受診勧奨判定値（51U/L 以上）を用い、31 U/L 以上の者の割合を求めた。

（参考）

☞ 平成 26 年国民健康・栄養調査による AST 平均値

（単位：IU/L）	男性	女性
20-29 歳	21.7	18.0
30-39 歳	22.3	18.9

□ ALTとは

ALT（アラニンアミノトランスフェラーゼ）は、細胞内で作られる酵素で、主に肝細胞に存在する。

□ 検査の意味

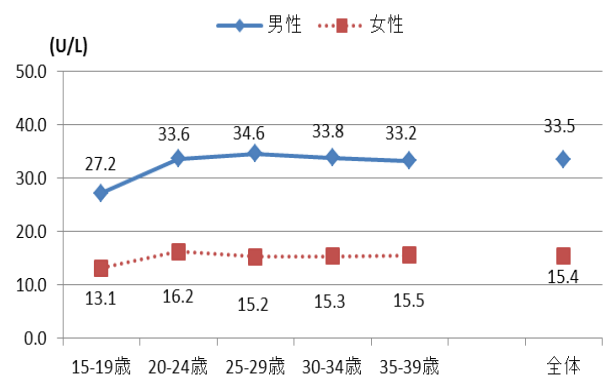
血液中のALTの量により、肝臓になんらかの異常が起きているかを知ることができる。

□ 結果

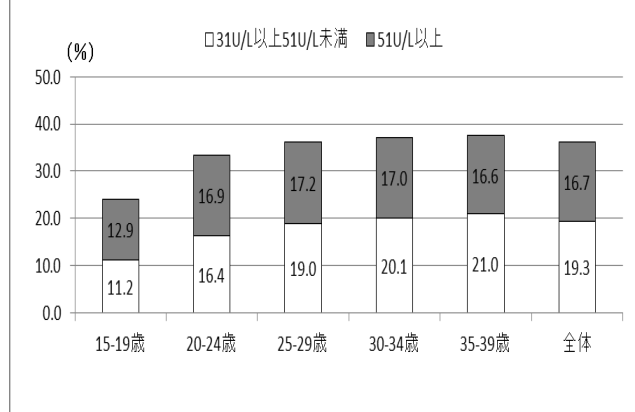
ALT 受診者数

	男性	女性	合計
15-19歳	116	96	212
20-24歳	408	558	966
25-29歳	580	1,418	1,998
30-34歳	935	3,144	4,079
35-39歳	1,026	3,777	4,803
合計	3,065	8,993	12,058

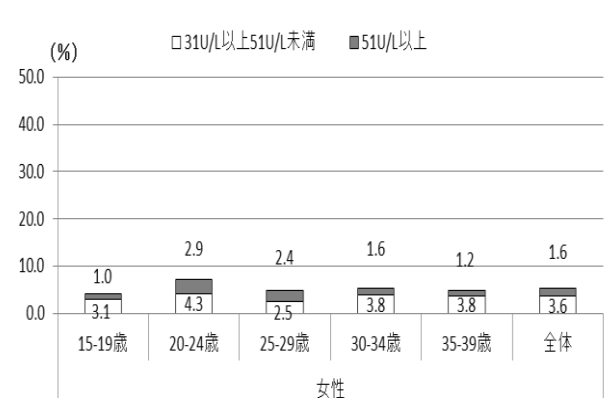
ALT 平均値



ALT31U/L以上の割合(男性)※



ALT31U/L以上の割合(女性)※



※ 特定健診・特定保健指導における保健指導判定値（31U/L 以上 51U/L 未満）及び受診勧奨判定値（51U/L 以上）を用い、31 U/L 以上の者の割合を求めた。

(参考)

☞ 平成26年国民健康・栄養調査によるALT平均値

(単位: IU/L)	男性	女性
20-29歳	26.0	14.7
30-39歳	25.8	15.8

γ-GT

□ γ-GTとは

γ-GT（ガンマ・グルタミール・トランスペプチターゼ）は、腎臓や肝臓に多く存在する酵素である。

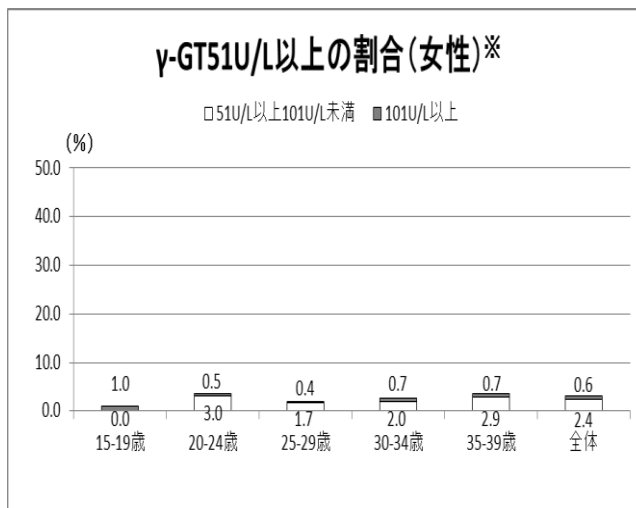
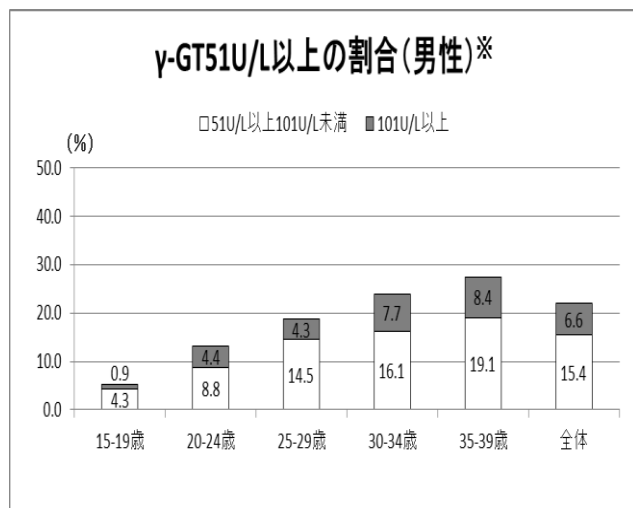
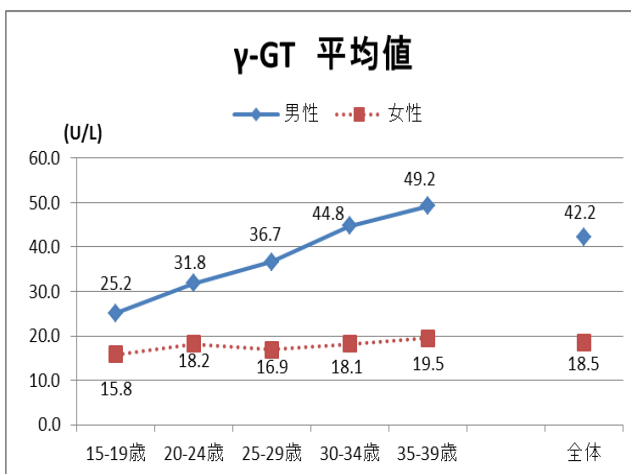
□ 検査の意味

この酵素はアルコールに敏感に反応するため、アルコール性の肝機能障害の判定に重要視されている。

□ 結果

γ-GT 受診者数

	男性	女性	合計
15-19歳	116	96	212
20-24歳	408	558	966
25-29歳	580	1,418	1,998
30-34歳	935	3,144	4,079
35-39歳	1,026	3,777	4,803
合計	3,065	8,993	12,058



※ 特定健診・特定保健指導における保健指導判定値（51U/L 以上 101U/L 未満）及び受診勧奨判定値（101U/L 以上）を用い、51 U/L 以上の者の割合を求めた。

（参考）

平成 26 年国民健康・栄養調査による γ-GT 平均値

（単位：IU/L）	男性	女性
20-29 歳	28.7	15.7
30-39 歳	40.4	18.6

中性脂肪 (TG)

□ 中性脂肪とは

中性脂肪が多いと、HDLコレステロールが減ってLDLコレステロールが増えやすくなるため、間接的に動脈硬化の原因となる。

□ 検査の意味

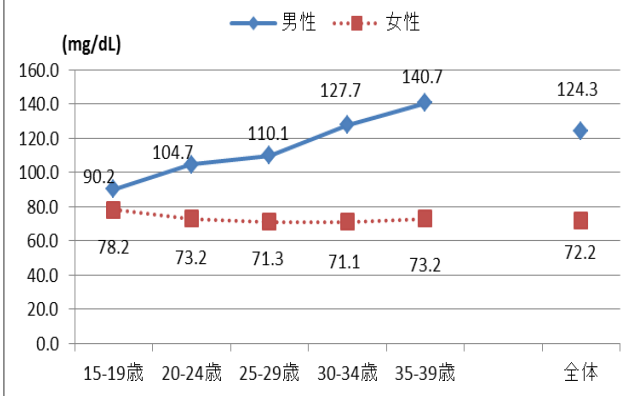
直接病気につながるわけではないが、増え過ぎれば、動脈硬化をはじめ危険な病気の原因になりかねない。肝臓で増え過ぎれば脂肪肝に、皮下組織で増え過ぎれば肥満につながる。

□ 結果

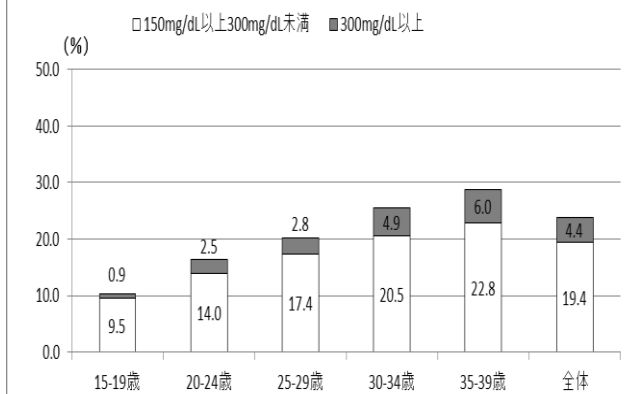
中性脂肪(TG) 受診者数

	男性	女性	合計
15-19歳	116	96	212
20-24歳	408	558	966
25-29歳	580	1,418	1,998
30-34歳	935	3,144	4,079
35-39歳	1,026	3,777	4,803
合計	3,065	8,993	12,058

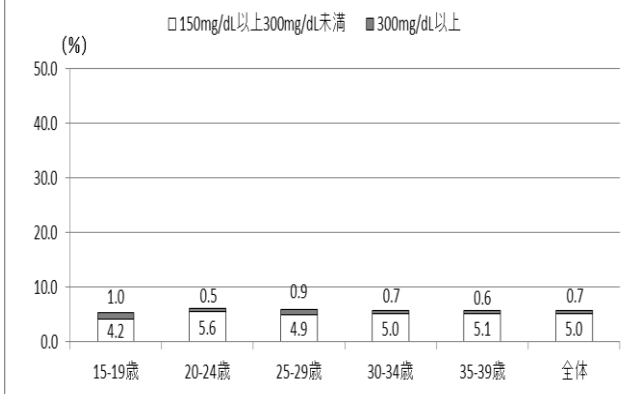
中性脂肪 平均値



中性脂肪(TG)150mg/dL以上の割合(男性)※



中性脂肪(TG)150mg/dL以上の割合(女性)※



※ 特定健診・特定保健指導における保健指導判定値（150mg/dL 以上 300mg/dL 未満）及び受診勧奨判定値（300mg/dL 以上）を用い、150mg/dL 以上の者の割合を求めた。

(参考)

☞ 平成 26 年国民健康・栄養調査による中性脂肪平均値 [コレステロールを下げる薬又は中性脂肪を下げる薬の使用を含む]

(単位： mg/dL)	男性	女性
20-29 歳	145.6	87.0
30-39 歳	132.3	102.1

HDLコレステロール

□ HDL コレステロールとは

血液中の余分なコレステロールを肝臓に運ぶ役割をして、血液中のコレステロールが増えるのを防ぐ。「善玉コレステロール」と呼ばれる。

□ 検査の意味

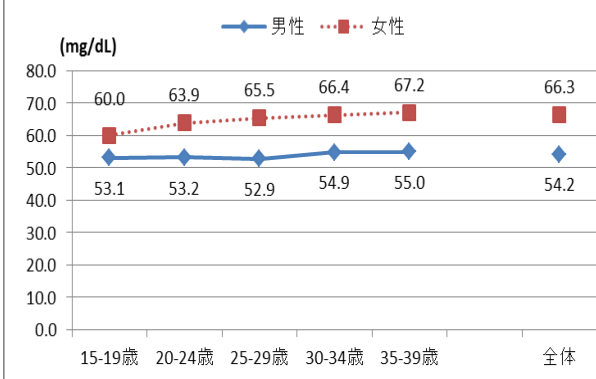
低HDLコレステロール血症は、動脈硬化性疾患（冠動脈疾患、脳血管疾患、閉塞性動脈硬化症）の危険因子である。

□ 結果

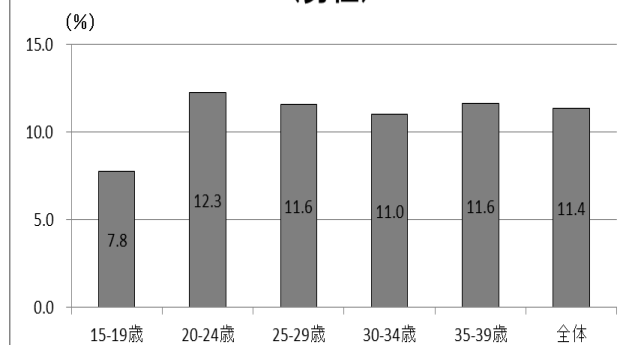
HDLコレステロール 受診者数

	男性	女性	合計
15-19歳	116	96	212
20-24歳	408	558	966
25-29歳	580	1,418	1,998
30-34歳	935	3,144	4,079
35-39歳	1,026	3,777	4,803
合計	3,065	8,993	12,058

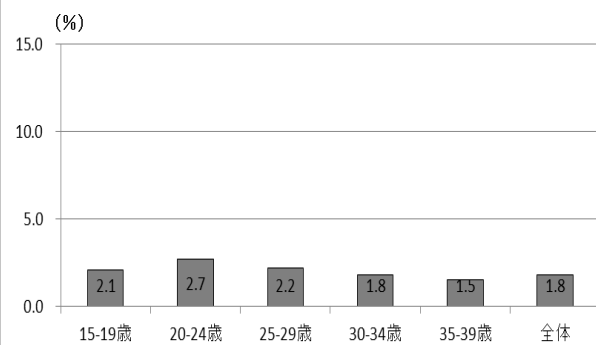
HDLコレステロール 平均値



HDLコレステロール40mg/dL未満の割合 (男性)*



HDLコレステロール40mg/dL未満の割合 (女性)*



* 特定健診・特定保健指導における保健指導判定値（40mg/dL 未満）を用い、40mg/dL 未満の者の割合を求めた。

(参考)

☞ 平成 26 年国民健康・栄養調査による HDL-C 平均値 [コレステロールを下げる薬又は中性脂肪を下げる薬の使用者含む]

(単位： mg/dL)	男性	女性
20-29 歳	52.4	65.4
30-39 歳	53.6	65.4

LDLコレステロール

LDLコレステロールとは

コレステロールを細胞に届けている役割をしているが、増えてしまうと血管を硬化させ動脈硬化を促進する。このため「悪玉コレステロール」と呼ばれる。

検査の意味

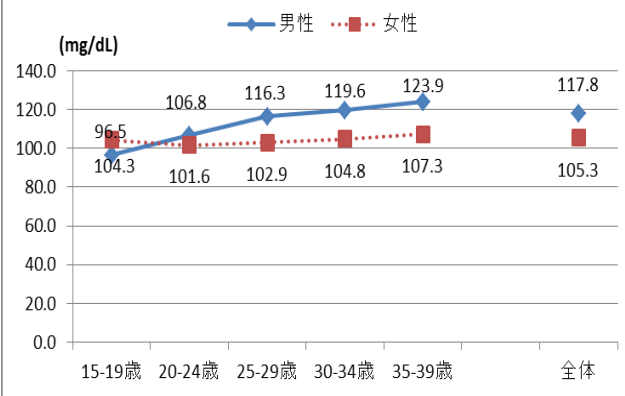
血液中のLDLコレステロールが多過ぎると、コレステロールが動脈の壁に付着し、動脈が厚く硬くなる。高LDLコレステロール血症は、冠動脈疾患、脳梗塞の危険因子である。

結果

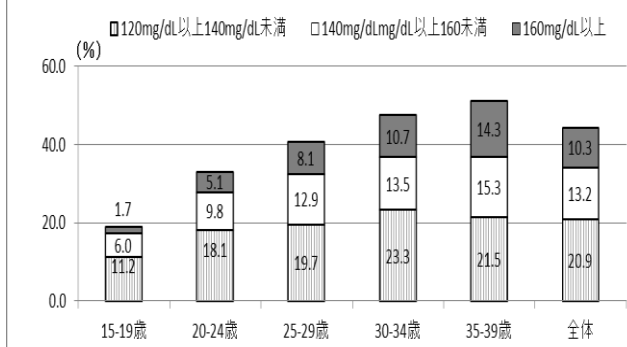
LDLコレステロール 受診者数

	男性	女性	合計
15-19歳	116	96	212
20-24歳	408	558	966
25-29歳	580	1,418	1,998
30-34歳	935	3,144	4,079
35-39歳	1,026	3,777	4,803
合計	3,065	8,993	12,058

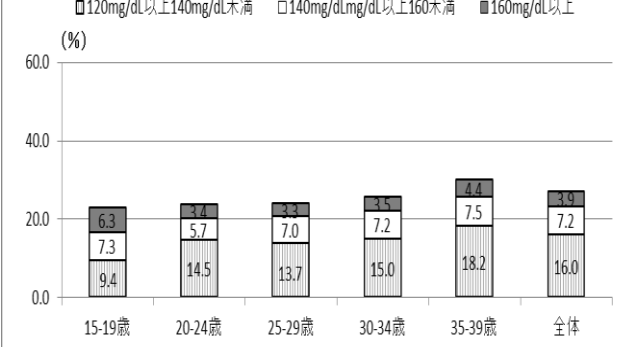
LDLコレステロール 平均値



LDLコレステロール120mg/dL以上の割合(男性)*



LDLコレステロール120mg/dL以上の割合(女性)*



* 特定健診・特定保健指導における保健指導判定値（120mg/dL 以上 140mg/dL 未満）、受診勧奨判定値

（140mg/dL 以上）、及び健康日本 21 の目標値の基準（160mg/dL 以上）を用い、120mg/dL 以上の者の割合を求めた。

（参考）

☞ 平成26年国民健康・栄養調査による LDL-C 平均値 [コレステロールを下げる薬又は中性脂肪を下げる薬の使用者含む]

(単位： mg/dL)	男性	女性
20-29 歳	106.8	103.9
30-39 歳	121.1	111.1

☞ 健康日本 21 目標値

【目標項目】脂質異常症の減少

【目標】(平成 34 年) LDL コレステロール 160mg/dl 以上者の割合 男性 6.2%、女性 8.8%

□ HbA1c (ヘモグロビン・エイワンシー) とは

血液検査をした日から過去1～2ヶ月間の血糖値の状況を反映する数値。

□ 検査の意味

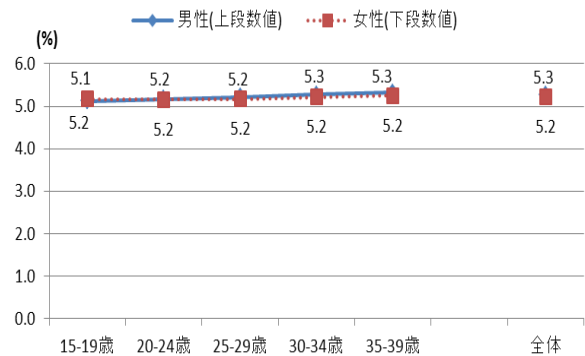
糖尿病の診断にも使われる。

□ 結果

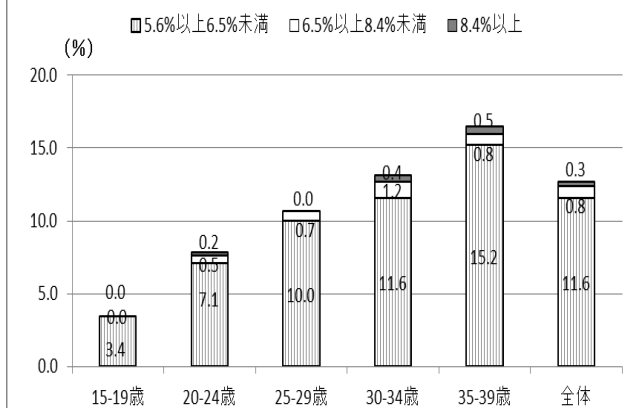
HbA1c 受診者数

	男性	女性	合計
15-19歳	116	96	212
20-24歳	408	558	966
25-29歳	580	1,418	1,998
30-34歳	935	3,143	4,078
35-39歳	1,026	3,777	4,803
合計	3,065	8,992	12,057

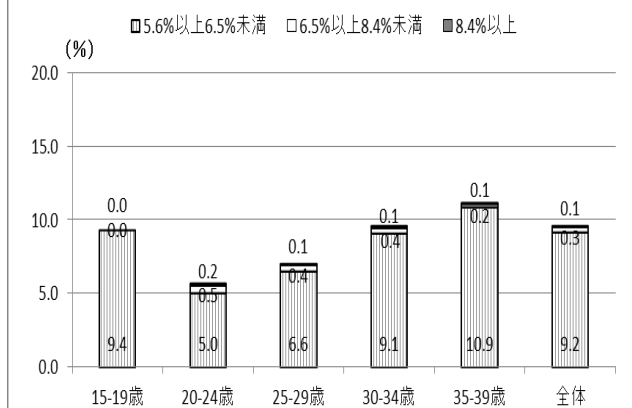
HbA1c 平均値



HbA1c(NGSP)5.6%以上の割合(男性)*



HbA1c(NGSP)5.6%以上の割合(女性)*



* 特定健診・特定保健指導における保健指導判定値 (5.6%以上 6.5%未満)、受診勧奨判定値 (6.5%以上)、及び健康日本 21 の目標値の基準 (8.4%以上) を用い、5.6%以上の者の割合を求めた。

(参考)

☞ 平成 26 年国民健康・栄養調査による HbA1c (NGSP) 平均値 [インスリン注射又は血糖を下げる薬の使用を含む]

(単位: %)	男性	女性
20-29 歳	5.3	5.3
30-39 歳	5.3	5.5

☞ 健康日本 21 目標値

【目標項目】血糖コントロール指標におけるコントロール不良者 (HbA1c が JDS 値 8.0% (NGSP 値 8.4%) 以上の者) の割合の減少

【目標】(平成 34 年) 1.0 %

空腹時血糖

□ 空腹時血糖とは

空腹時（食後 10 時間以上）の血液中のブドウ糖の濃度。

□ 検査の意味

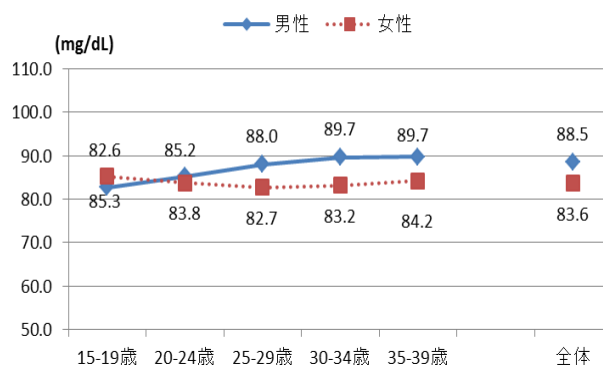
糖尿病の診断に欠かせない検査。血糖値は食事の影響を受ける。

□ 結果

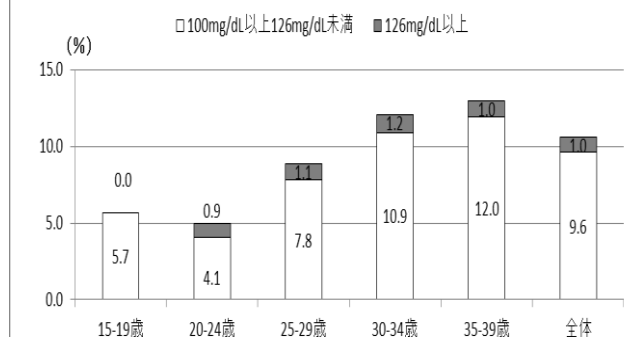
空腹時血糖 受診者数

	男性	女性	合計
15-19歳	88	76	164
20-24歳	343	439	782
25-29歳	473	1,132	1,605
30-34歳	768	2,561	3,329
35-39歳	886	3,136	4,022
合計	2,558	7,344	9,902

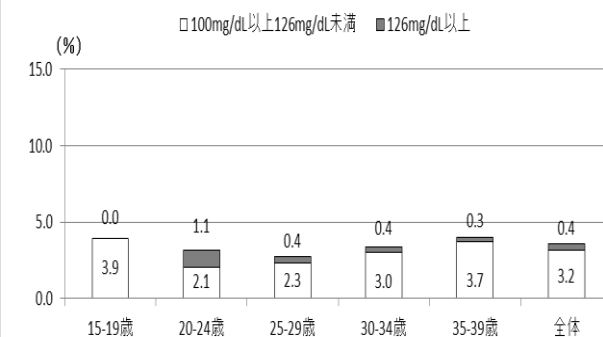
空腹時血糖 平均値



空腹時血糖100mg/dL以上の割合(男性)※



空腹時血糖100mg/dL以上の割合(女性)※



※ 特定健診・特定保健指導における保健指導判定値（100mg/dL 以上 126mg/dL 未満）及び受診勧奨判定値（126mg/dL 以上）を用い、100mg/dL 以上の者の割合を求めた。

(参考)

平成 26 年国民健康・栄養調査による血糖値の平均値 [インスリン注射又は血糖を下げる薬の使用者含む]

(単位： mg/dL)	男性	女性
20-29 歳	92.3	91.2
30-39 歳	92.4	92.6

尿糖

□ 尿糖とは

糖質が尿のなかに漏れ出した状態。

□ 検査の意味

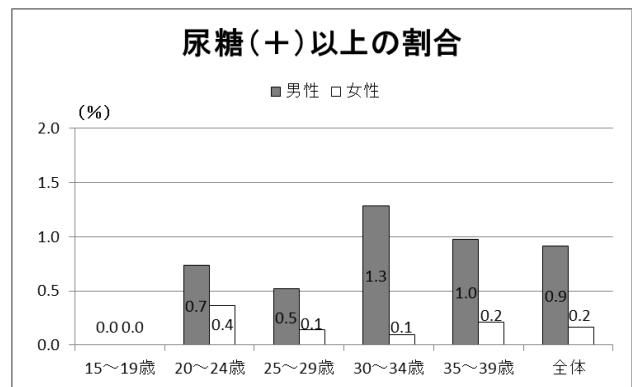
糖尿病の有無を診断するのに有効。

【判定基準】正常は陰性（-）。ただし、ステロイド剤の服用や妊娠により、一時的に陽性になる場合もある。

□ 結果

尿糖 受診者数

	男性	女性	合計
15-19歳	116	93	209
20-24歳	408	550	958
25-29歳	576	1,408	1,984
30-34歳	933	3,126	4,059
35-39歳	1,024	3,736	4,760
合計	3,057	8,913	11,970



尿蛋白

□ 尿蛋白とは

血液中の分子量の小さい蛋白質が尿のなかに漏れ出した状態。

□ 検査の意味

腎臓の状態を調べる検査。

【判定基準】正常は陰性（-）。ただし、ほんの少量の蛋白質にも反応するため、激しい運動をした時や、暑さ・寒さ、強いストレス、興奮、入浴後や生理の前後などは、腎臓に異常がなくても一時的に陽性になる場合もある。

□ 結果

尿蛋白 受診者数

	男性	女性	合計
15-19歳	116	93	209
20-24歳	408	550	958
25-29歳	576	1,408	1,984
30-34歳	933	3,126	4,059
35-39歳	1,024	3,736	4,760
合計	3,057	8,913	11,970

